

令和2年度第1回高知県職業能力開発審議会 議事概要

1. 日 時 令和2年7月15日(水)
2. 場 所 オーテピア高知図書館 4階 ホール
3. 出席委員 大井方子 筒井早智子 二宮久美 脇尾一仁 大西孝枝 田鍋進
中山和恵 杉藤雄紀 川村進一 森由枝 吉門文恵
4. 議 事 高等技術学校の取組について
第10次高知県職業能力開発計画の進捗状況報告について
高知県職業能力開発審議会 令和2年度開催スケジュールについて

5. 内 容

(1) 開会

(2) 商工労働部長あいさつ

(3) 委員紹介

(4) 会長選出

脇尾委員が会長、筒井委員が会長代理に選出

(5) 高等技術学校の取組について

○事務局から説明(中村高等技術学校 紹介ビデオ上映含む)

○質疑意見など

(委員)

中村校に新規配置された生活相談員は、どのような業務をしているのか。中村校の動画は、こういった場面で活用されているのか。

(事務局)

生活相談員には、配慮が必要な訓練生を中心に様子を見ていただいている。

動画は、宿毛市や黒潮町などのケーブルテレビで放送いただいたり、専用アプリから視聴できるようにしている。

(委員)

企業ニーズに既存訓練科が合っているかの検討と職業訓練ニーズが高まっていることへの対応が必要となる。

職業訓練の実施体制は、家族の方や入校を希望される本人が知りたい項目であり、トイレや空調の設備の状況を含め、わかりやすくアピールすることが重要となる。道徳やマナーといった人間性を向上させる訓練を行うことも重要となる。

就職後のフォロー体制を充実すれば、採用企業側からも訓練生からも、学校が責任を

持って、面倒を見てくれるという安心感が出てくる。

(事務局)

訓練生本人や家族の方から技術学校がどう見えるのかという視点は大切である。昨年度にご指摘を受けた女性に対するPRも行っていく必要があると考えている。

オープンキャンパスに来た方には、設備面について伝えることができているが、十分とはいえないので、今後検討していきたい。

定着率については本当に重要な課題だと考えている。特に新規高卒者の離職率は全国よりも高いという状況もあり、いかに定着させていくかというところについては、第11次高知県職業能力開発計画を作成していく中でも議論させていただきたい。

(委員)

製造業においても、単なる作業員は今後要らなくなるだろうという状況になりつつある。ロボット化、AIの導入、自動化の促進というところで、単なる作業員を量産していくということであれば、技術学校の存在価値はなくなる。

中小企業においては、商品企画開発といった上から考えていく部分と、日々の改善改良というところのボトムアップをしていくという両方がないと生き残っていけない。基礎的なスキルを持った人材を育成していく部分に関しては、必ずニーズは残っていくので、そういうものの見方や考え方、発想力を訓練の中で実践することが重要となる。

パンフレットについては、もう少し若い人たちが興味を引くような、夢と希望が詰まっている内容のほうがよい。地域の産業人材の育成を担っていくという理念が技術学校にはあるので、もう少し改善いただきたい。

(事務局)

パンフレットについては、魅力あるものにするため、この1年で考えていきたい。

これからは単なる作業員は要らなくなるということについては、ロボット化やAI化は今後、当然されていくことになるが、最後の仕上げに絶対人の手が必要となり、こういった技術を持った人材を育てていく必要がある。高等技術学校は、そういった技術のプロフェッショナル人材を育てていく大きな役割を担っていくと考えている。

そのためにも、こういう学校があって何を学ぶかということをしかりとPRしていきたい。

(委員)

左官エクステリア科に年齢制限を引き上げたことにより、45歳の訓練生が入校したとのことだが、この方は移住してきた方か。また、就職はできたのか。

今後はUターンする方、それから定年退職後、子どもの頃になりたかった仕事に再挑戦する方がいる。そういった方に学校をPRすることも、重要ではないか。

(事務局)

左官エクステリア科の45歳の訓練生は、就職ができています。
住宅リフォーム科には、定年退職後の方が入校しています。

(委員)

パンフレットの表紙にある「手に職を」というフレーズは、若者には響かないキャッチコピーになるので、10代に響くフレーズに変更する必要がある。加えて、自分たちで作り上げたものや修了生の成功事例を載せるとよいのではないかと。就職率が高いというアピール、就職後のフォロー体制の充実も大切になる。

(事務局)

パンフレットや動画については、いただいたご意見を参考に少しずつ改善していきたい。

(6) 第10次高知県職業能力開発計画の進捗状況報告について

- 事務局から説明
- 質疑意見など

(委員)

委託訓練は応募者数が多く、こちらの訓練の方が求められているのではないかと。

技術学校への入校は新規学卒者と若い離職者が対象となるが、在校生の年齢構成を教えてください。

コロナによって離職せざるを得なかった方向けに、入校する時期が年2回程度あったほうが良いのではないかと。

(事務局)

年齢別データは次回審議会でお示ししたい。

委託訓練については、技術学校の施設内訓練と並行で実施することが大切ではないかと考えている。

(委員)

訓練期間は半年でもいいという話は推進協議会から出ないのか。

(事務局)

協議会の中では、追加した第2種電気工事士の資格取得には訓練時間が一定数必要となり、短期間の訓練では難しいという整理がされている。

一方、左官エクステリア科は、基礎訓練だけで構わないという考えの事業者もおり、訓練期間を1年としている。

(委員)

PR 予算をこれまで以上に確保すれば、入校者数が増加するのではないかと。

年齢制限を上げたことにより、効果が出ているし、就職率を上げることも大事だが、年齢にとらわれなくてもいいのではないかと。

(7) 高知県職業能力開発審議会 令和2年度開催スケジュールについて

○事務局から説明

○質疑意見など

特になし

(以上)